

自己評価報告書(最終報告)

報告者

予防教育センター
／佐々木 恵

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

平成23年度後期開講の大学院新規授業科目「予防教育科学」を実施する。本授業は学生にとって全く新しい領域であるため、その理論的背景、用いられている教育技法、そして実際の授業実践について、基礎から応用への連続性を十分理解できるよう配慮しながら授業を展開する。また、後年に開講予定の学部新規授業科目「予防教育科学と学校教育」についても、具体的な準備を開始する。

2. 点検・評価

平成23年度後期開講の大学院新規授業科目「予防教育科学」を実施した。本授業は学生にとって全く新しい領域であるため、その理論的背景、用いられている教育技法、そして実際の授業実践について、基礎から応用への連続性を十分理解できるよう配慮しながら授業を展開した。特に、授業内では実習的要素をふんだんに取り入れ、受講生が予防教育科学の視点を習得し、学校教育現場で活用できるよう工夫した。また、平成24年度前期に開講予定の学部新規授業科目「予防教育科学と学校教育」についても、シラバスを完成させ、具体的な準備を開始した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①平成23年度開講の大学院新規授業科目「予防教育科学」の授業を円滑に進める。
- ②後年開講予定の学部新規授業科目「予防教育科学と学校教育」の授業内容について具体的に検討する。
- ③大学構内での様子などから、支援が必要と推察される学生には、積極的に声をかける。
- ④社会人としての礼儀(挨拶・言葉遣いなど)について手本となるよう、学生の前での言動に留意する。

2. 点検・評価

- ①平成23年度開講の大学院新規授業科目「予防教育科学」の授業を円滑に進めた。
- ②後年開講予定の学部新規授業科目「予防教育科学と学校教育」の授業内容について具体的に検討した。
- ③大学構内での様子などから、支援が必要と推察される学生には、積極的に声をかけた。
- ④社会人としての礼儀(挨拶・言葉遣いなど)について手本となるよう、学生の前での言動に留意した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①予防教育に関する知見について、本学紀要をはじめ学会誌等に投稿するとともに、学会発表にて国内外の研究者と活発に意見交換を行う。
- ②科学研究費補助金基盤研究Cの研究課題において、研究代表者山崎勝之教授(人間形成コース)の連携研究者として、予防教育に関わる研究を遂行する。

2. 点検・評価

- ①予防教育に関する知見について、本学紀要をはじめ学会誌等に投稿するとともに、学会発表にて国内外の研究者と活発に意見交換を行った。
- ②科学研究費補助金基盤研究Cの研究課題において、研究代表者山崎勝之教授(人間形成コース)の連携研究者として、予防教育に関わる研究を遂行し、国際学会等にてその成果を発表した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

予防教育科学教育研究センター専任教員として、センター運営のさらなる円滑化へ向けて尽力する。

2. 点検・評価

予防教育科学教育研究センター専任教員として、センター運営のさらなる円滑化へ向けて尽力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属小・中学校の教員と連携し、予防教育プログラムの実践・効果検証を行う。(附属学校)
- ②地域の学校と連携し、予防教育プログラムの実践・効果検証を進める。また、地域から予防教育に関する活動の要請があった場合には、積極的に協力していく。(社会連携)
- ③国内外の学術会議にて、予防教育における国際的な研究者らとともに、予防教育の今後のあり方について議論し交流を深める。(国際交流)

2. 点検・評価

- ①附属小・中学校の教員と連携し、予防教育プログラムの実践・効果検証を行った。また、附属小学校の研究推進授業や研究発表会において指導・助言者を務めた。(附属学校)
- ②地域の学校と連携し、予防教育プログラムの実践・効果検証を進めた。また、地域から予防教育に関する活動(保健集会の講師等)の要請があったため、それらに協力した。(社会連携)
- ③国内外の学術会議にて、予防教育における国際的な研究者らとともに、予防教育の今後のあり方について議論し交流を深めた。(国際交流)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

予防教育科学センターの本務を中心に、予防教育プログラムの開発・実践、予防教育に関する大学院講義の開講、地域との連携等、本学の中長期計画の達成を目指して日夜勤しみ、それらの目標を達成した。